



田検小学校

ヒストリア ～歴史秘話～

第23号 (27.9.17)

今から150年前の1865(慶応1)年頃、須古に外人が来て、「白」砂糖工場を建設した話です。

1 薩摩藩の事業：「黒」砂糖から「白」砂糖へ

当時、薩摩藩は、奄美大島の「黒」砂糖(原料：サトウキビ)を「白」砂糖に精製し、中国(上海)などの海外へ高価で輸出するという「オオシマ・スキム(大島計画)」を打ち出しました。

この計画を提案したのは、長崎の「グラバー商会」だったそうです。

【註】グラバー商会は、トーマス・ブレイク・グラバーのグラバー邸が有名が設立した会社。生糸や茶の輸出を中心として扱い、武器や弾薬なども販売。造船や採炭を通して日本の近代化に貢献した。グラバーは、「国産(日本)ビールの育ての親」とも言われている。

薩摩藩は、グラバー商会を通じて、白糖製造の精製機械を4組購入し、奄美大島に4箇所の白糖製造工場を建設したのです。場所は、瀬留(龍郷)、金久(名瀬)、久慈(瀬戸内)、そして宇検村の須古です。

白糖精製機械1組の値段は、今の金額で約3億円とも言われています。奄美大島に4箇所の白糖工場を建設した薩摩藩は、機械だけでも約12億円を投じたわけです。人件費などを含めると20億円を超える大事業だったと言われています。

2 トーマス・J・ウォートルスとマッキンタイラー



トーマス・J・ウォートルス

グラバー商会は、薩摩藩にイギリス人の建築技師であるトーマス・J・ウォートルスらを紹介したのです。

薩摩藩は、トーマス・J・ウォートルス(30才位)とマッキンタイラー(35才位)の二人を迎え、白糖

製造工場の建設・操業の指揮を執らせました。

1865年、薩摩藩の「御用人：松岡十太夫」と「英通訳：上野敬介」は、「機械取仕立方：ウォートルス」と「白糖製造人：マッキンタイラー」、それに薩摩藩の役人7人、建設と製造の職人約120人を引き連れて奄美大島に渡り、4地区で白糖工場の建設に着手したのです。須古の工場は、2年がかり(慶応元年～2年)で完成。その後、慶応3年から操業したものの、2年あまり後の明治元(1869)年に、わずか2年で廃業しました(交通網の未整備、原料と燃料の不足、採算性の問題)。

3 須古の白糖工場の様子

形	大きさ	煙突(えんとつ)		屋根	壁材
		本数	高さ		
平屋 (1階建て)	間口 54m 奥行 18m	1本	30m	トタン 葺	レンガ

レンガ造りの広さ約300坪くらいの工場に、高さ30mもの煙突がそびえ立っていた光景は、きっと当時の人々を驚かせたにちがいません。

木材燃料と水が豊富だった須古と久慈の工場は、他の二つの工場よりも生産力が高かったのではないかとされています。須古の工場が建っていたと思われる場所は、現在はみかん畑となっています。

工場が廃止された後は、機械類は他の会社に売られたそうです。機械4組は、今の金額で約3億円で売られたのではないかとされています。煙突や建物に使われていたレンガ(赤レンガ、耐火レンガ)や石材は、近くに住む人々や学校などに払い下げされ、建築用の材料として再利用されたようです。今も須古集落の民家の弊に、その一部が遺っています。



4 トーマス・J・ウォートルスらの暮らしぶり

現在の奄美市矢之脇町、裁判所に近い「秋葉山」に瓦葺の洋館を建て、料理人や家政婦を雇って暮らしたそうです。塩浜町出身の家政婦「ましゅ」は、やがて恋人となったようです。マッキンタイラーにも、龍郷町出身の「きゅ」という恋人がいたようです。

ウォートルスとマッキンタイラーは、島内の4工場を回って建設・操業の指揮を執っていたらしく、須古には、「ましゅ」と「きゅ」さん、中国人の料理人を連れて来ており、元稲圓さんの家を借りていたそうです。約百人の工事関係者は、須古に作った長屋に住んだり、湯灣、田検、須古で下宿したりしたそうです。

名瀬に残る島唄の一節です。ウォートルスらが島を離れるときの様子が歌われています。

沖走りゆり オートルス(ウォートルス)船や
煙(キブシ)まきやまきや 沖走りゆり
袖(スディ)しぶり 塩浜(シュバマ)「ましゅ」や
うり見ち袖(スディ)しぶり

5 奄美大島を離れたトーマス・J・ウォートルス

薩摩藩や奄美大島での業績が認められ、1870(明治3)年、大蔵省(今の財務省)で働くことになります。大蔵省の建物や大阪の造幣局、皇居の「山里吊橋」などを建設。1875(明治8)年に手掛けた「銀座煉瓦(レンガ)街」は、彼の最高傑作と言われています。1877年頃に日本を離れ、上海に渡り、最後はアメリカコロラド銀山の開発に従事したようです。(文責：福田裕生)

【参考文献】① 平成18(2006)年3月、長谷川雅康「薩摩のものづくり研究 近代日本黎明期における薩摩藩集成館事業の諸技術とその位置付けに関する総合的研究」
② 昭和10(1972)年3月、鹿児島県立糖業講習所「慶應年間大島郡に於ける白糖の製造」